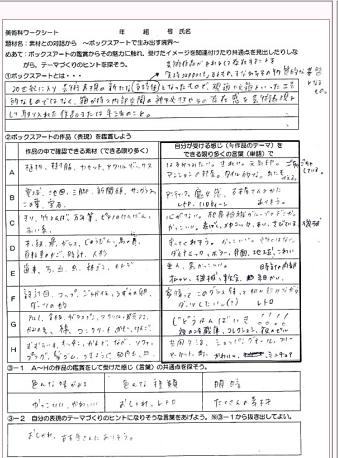
## 豊かに発想し構想を練るためのポイントは?

▲ 豊かに発想する段階では、考えをまとめることを目的とせず、多くのアイデアを出し、イメージや考えを広げられるようにします。構想を練る段階では、表現における主題をより深められるようにします。

## ポイント①:実態に応じてワークシートの構成を工夫しましょう。

生徒の実態に応じて、説明する言葉を詳しくしたり、視覚的な情報の提示を多くしたりすることで、考えが広がったり深まったりするようにしましょう。



ボックスアートの題材における導入の鑑賞の段階から発想の段階までで活用 したワークシート(学習過程を細かく示し、意見交換の内容も一覧できるよう にした例)

学年によってどのような形式が適切かを考えなければいけませんね。特に第1学年では、 見通しをもつという意味でもこのように細かく示すことが大切ですね!



2枚を重ねて確認

立体での表現題材における完成イメージと骨組みの設計イメージを実物大で表現したワークシート (紙とトレーシングペーパーを活用した例)

立体表現の内部を意識できるようにするためのよい方法ですね。実物大で描かせるのもいいですね!



## ポイント②:スケッチブック等を気軽に活用できるようにしましょう。

主題を生み出したり、アイデアを広げたりする段階で、表現することに抵抗感がある 生徒もいます。学校で使用しているスケッチブック等は、とにかく気軽に描いてよいものと いう意識をもたせましょう。他者への説明的な表現、イメージする言葉などを、自由に 表現してよいということを伝えましょう。



立体での表現の題材におけるスケッチの例

思いつくままに自由に表現していることが分かりますね。日頃から、スケッチブック等は、豊かに発想するために自由に使えるものだという意識をもたせたいですね。収集した情報などと併せるとポートフォリオとして生かすこともできますね!



## ポイント③:「思考ツール」を使ってみましょう。

思考ツールには、幅広い多様なアイデアを生み出すときに用いる「イメージマップ(ウェビング)」、多様な視点から考えたり、複数のアイデアを出したりするときに用いる「クマ手チャート」、対象について多様な視点から考えたことをリストアップし、新しい考えを生み出すときに用いる「X/Y/Wチャート」など、様々なものがあります。目的に合わせて活用しましょう。

